

為替相場展望

2012年5月



調査部 マクロ経済研究センター

<http://www.jri.co.jp/report/medium/publication/>

目次

【為替相場概説】	p. 1
◆ドル円、ユーロ相場の回顧	p. 2
◆金利差からみた為替相場	p. 3
米 F R B の金融政策と米国の金利動向	
E C B の金融政策とユーロ圏の金利動向	
日銀の金融政策と日本の金利動向	
金利差からみた為替相場	
◆為替需給からみた為替相場見通し	p. 7
為替需給からみた円相場	
為替需給からみたユーロ相場	
◆トピックス	p. 9
中国による米国債投資減少の米資金フローへの影響	
◆ドル円、ユーロ相場の見通し	p. 10
【内外市場データ】	p. 11

◆本資料は2012年5月2日9:00時点で利用可能な情報をもとに作成しています。

◆本資料に関するご照会は、下記あてお願いいたします。

欧米経済・市場動向グループ

井上 肇 (Tel : 03-6833-0920 Mail : inoue.hajime@jri.co.jp)

為替相場概説（2012年5月）

1. ドル円、ユーロ相場の回顧

＜4月のドル円相場＞

米雇用統計の下振れや日銀による追加金融緩和見送り等を背景に、月半ばにかけて80円台まで円高ドル安が進行。その後、日銀の追加緩和観測再燃等を背景に一旦81円台までドルが反発したものの、米GDP統計の下振れ等を受け、月末には80円割れまで円高ドル安が進行。

＜4月のユーロ円相場＞

スペイン国債入札の不調とそれを契機とした欧州での債務不安再燃等を背景に、月半ばにかけて一時104円台まで円高ユーロ安が進行。月後半は、日銀による追加金融緩和観測再燃等を背景に、一旦108円台までユーロが反発したものの、スペインでの景気・財政悪化懸念等を背景に、月末には105円台までユーロが反落。

2. 金利差からみた為替相場

＜米FRBの金融政策と米国の金利動向＞

米FRBは4月のFOMCで金融政策の現状維持を決定。雇用環境の回復ペースが緩慢にとどまるなか、FRBは引き続き現行の金融緩和スタンスを継続する見通し。

米2年債利回りは、米国経済の回復期待を受けて、徐々にレンジを切り上げていく見込みながら、米FRBによる超低金利政策の長期化が予想されるなか、緩やかな上昇にとどまる見込み。

＜ECBの金融政策とユーロ圏の金利動向＞

ECBは4月の理事会で金融政策の現状維持を決定。ユーロ圏景気の下振れリスクや債務危機の再燃リスクがある一方、ドイツのインフレリスクへの警戒もあり、ECBは金融政策の現状維持を続ける見通し。

独2年債利回りは、ECBによる低金利政策の長期化が見込まれるほか、債務問題への懸念を背景とした周辺国からの逃避資金流入もあり、低水準での推移が続く見通し。

＜日銀の金融政策と日本の金利動向＞

日銀は、4月下旬の会合で追加金融緩和を決定。日銀は、少なくとも2014年まではデフレ脱却に向け積極的な金融緩和スタンスを継続する見通し。

わが国2年債利回りは、日銀の積極的な金融緩和姿勢や、市場の資金余剰感等から、金利上昇が抑制され、低水準での推移が長期化する見通し。

＜金利差からみた為替相場＞

日米ユーロ圏ともに早期の利上げが展望できないなか、当面、内外金利差の大幅拡大は見込めず、本格的な円安進行は期待薄。なお、日銀による追加金融緩和が実施されても、金利面からの円安誘導効果は限られる見込み。一

方、日銀の緩和姿勢に対する市場の期待が後退すれば、円高に振れるリスク。

3. 為替需給からみた為替相場

＜為替需給からみた円相場＞

円を巡る当面の為替需給を展望すると、①わが国貿易収支の赤字基調が続く見込みであること、②対外直接投資が急減する公算は小であること、等から、為替需給面からは円安地合いが続く見通し。もっとも、①対外証券投資の本格化にはなお時間がかかる公算であること、②投機筋の円売り余力が乏しくなっていること、等から、持続的かつ大幅な円安進行は期待薄。むしろ、投機筋の円売りポジションが巻き戻されれば、円高圧力となる可能性。

＜為替需給からみたユーロ相場＞

ユーロを巡る当面の為替需給を展望すると、域外からユーロ圏への証券投資は売り越し基調、ないしは低調推移が続く公算が大であり、ユーロ安圧力になるとみられる一方、ユーロ圏から域外への証券投資は断続的に買い越しが続く公算が大であることや、ユーロ圏の貿易収支、経常収支は黒字基調が続く公算であることがユーロ下支えに期待。加えて、投機筋のユーロ売りポジションは依然高水準で、ユーロ安進行余地は限定的。以上のことから、証券投資を中心に債務危機の状況に振られやすい地合いながら、一方的なユーロ安進行の公算は小。

4. トピックス：中国による米国債投資減少の米資金フローへの影響

昨年夏以降、中国の米国債投資の売り越しが散見されており、中国はドルに偏重した外貨準備の構成のリバランスを行っているとの見方も可能。さらに、4月の人民元の変動幅拡大の結果、中国が人民元相場を市場の需給に委ねる度合いが高まれば、介入の規模は小さくなる公算が大であり、ドル買い需要（米国債需要）が減少すれば、中長期でみたドル安圧力となる恐れ。

5. ドル円、ユーロ相場の見通し

＜ドル円相場の見通し＞

ドル円相場は、①米国経済の回復基調、②日銀の積極的な金融緩和姿勢、③わが国貿易収支の赤字基調継続、等から、円高進行リスクは大きく後退したものの、米国の超低金利政策の長期化が見込まれるなか、大幅な円安ドル高進行も期待薄。80～85円を中心とした円高値圏での推移が続く見通し。

＜ユーロ相場の見通し＞

ユーロ円相場は、ECBによる長期流動性資金供給の効果が一巡するなか、欧州債務問題への警戒感が再燃しているほか、緊縮財政等を背景にユーロ圏景気の悪化が予想されること等から、当面ユーロが軟調な展開が続く見通し。

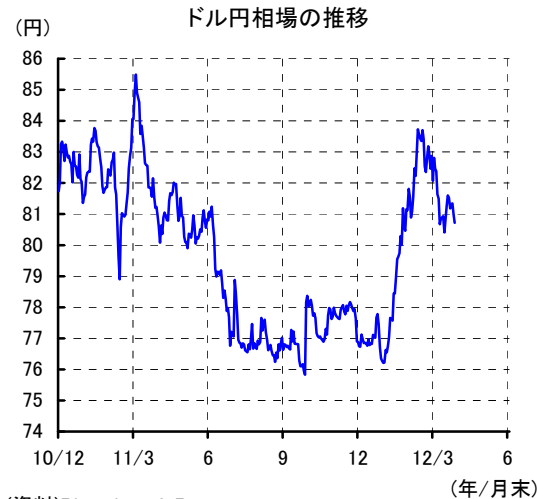
欧州での債務不安再燃、米国景気回復への過度な期待後退、等を背景に、円高が進行。

＜4月のドル円相場＞

4月入り以降、米雇用統計の市場予想対比下振れや日銀による追加金融緩和見送り等を背景に、月半ばにかけて80円台まで円高ドル安が進行。月後半は、日銀による追加金融緩和観測が再び高まるなか、81円台後半までドルが反発したものの、月末には、日銀による追加金融緩和が想定通りの内容にとどまったことや、米GDP統計が市場予想対比下振れしたこと等を背景に、月末には80円割れまで円高ドル安が進行。

＜4月のユーロ円相場＞

月初、①スペイン国債入札の不調や、それを契機とした欧州での債務不安再燃、②ドラギECB総裁によるユーロ圏景気の下振れリスク言及、③日銀による追加金融緩和見送り、等を背景に、月半ばにかけて、一時104円台まで円高ユーロ安が進行。月後半は、日銀による追加金融緩和観測再燃やIMFの資金基盤強化合意等を背景に、一旦108円台までユーロが反発したものの、スペインでの景気・財政悪化懸念、フランス、オランダなどの政治情勢に対する不透明感の広がり、米S&Pによるスペイン国債格下げ、等を背景に、月末には105円台半ばまでユーロが反落。



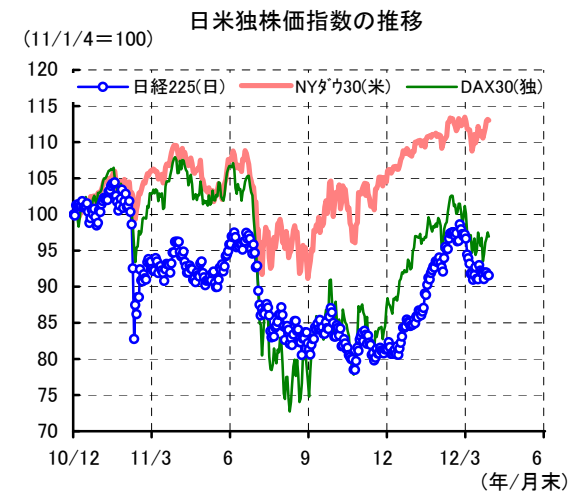
(資料)Bloomberg L.P.



(資料)Bloomberg L.P.



(資料)Bloomberg L.P.



(資料)Bloomberg L.P.

米FRBは金融政策を現状維持。米金利は緩やかな上昇にとどまる見通し。

＜米FRBの金融政策＞

米FRBは4月26日のFOMCで金融政策の現状維持を決定。FF金利の誘導目標を異例の低水準に据え置く超低金利政策を少なくとも2014年終盤まで維持する方針等を確認。同時に発表された政策金利見通しでは、ゼロ金利解除のタイミングがやや前倒し方向に修正されたものの、バーナンキFRB議長は、FOMC後の会見で、今後の量的緩和の可能性に言及し、早期の利上げ期待を牽制。

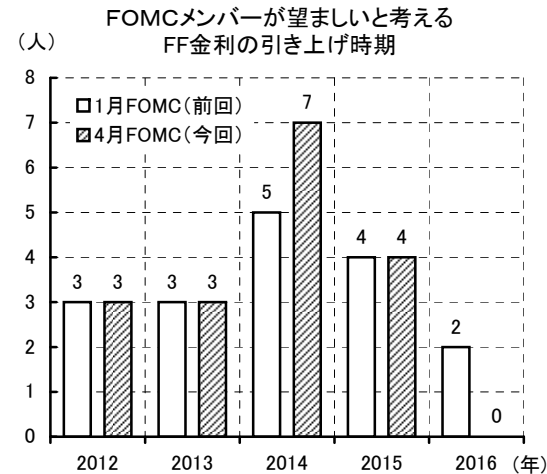
政策金利の先行きに対する市場の見方を示すFF金利先物のイールドカーブは、4月のFOMC前後でほとんど変化はなく、利上げ開始時期は2014年秋以降という見方で不変。

先行きを展望すると、FRBによる追加金融緩和の可能性は遠のいたものの、雇用環境の回復ペースが緩慢にとどまるなか、引き続き現行の金融緩和スタンスを継続する見通し。

＜米国の金利動向＞

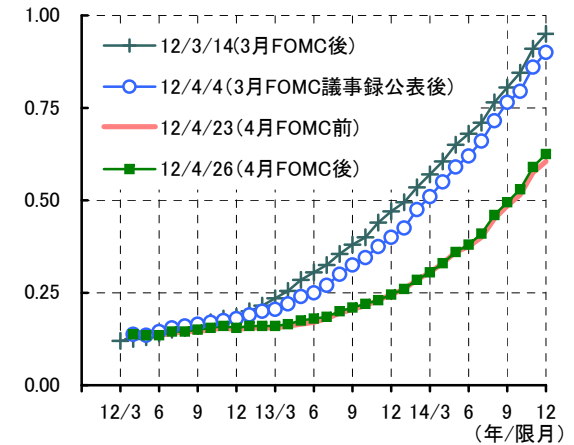
4月の米2年債利回りは、月初に3月のFOMC議事録の公表を受けて追加金融緩和観測が後退し、上昇したものの、その後は、米雇用統計の市場予想対比下振れ等を背景に、2月上旬の水準まで低下。

先行きの米2年債利回りは、米国経済の回復期待を受けて、徐々にレンジを切り上げていく見込みながら、米FRBによる超低金利政策の長期化が予想されるなか、緩やかな上昇にとどまる見込み。

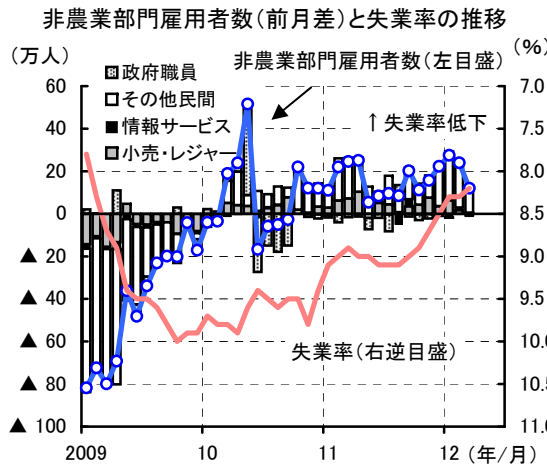


(資料)米FRB

(%) FF金利先物のイールドカーブの変化



(資料)米Chicago Board of Trade



(資料)Bureau of Labor Statistics

(%) 米2年債利回りの推移



(資料)Bloomberg L.P.

ECBは金融政策を現状維持。独金利は当面低水準での推移が続く見通し。

<ECBの金融政策>

ECBは4月4日の理事会で金融政策の現状維持を決定。理事会後のドラギECB総裁会見では、景気の下振れリスクに言及する一方、ドイツでのインフレ圧力を注視する姿勢も強調。

なお、大規模な流動性供給措置が及ぼす副作用を警戒し、バイトマン独連銀総裁から出口戦略を求める意見が出ていたものの、ドラギ総裁は、「出口戦略議論は時期尚早」とし、こうした意見を牽制。

実際、ECBによる長期流動性資金供給等をきっかけに低下傾向をたどっていたイタリア・スペインの国債利回りが再上昇しており、むしろ金融緩和強化が不可欠な情勢。

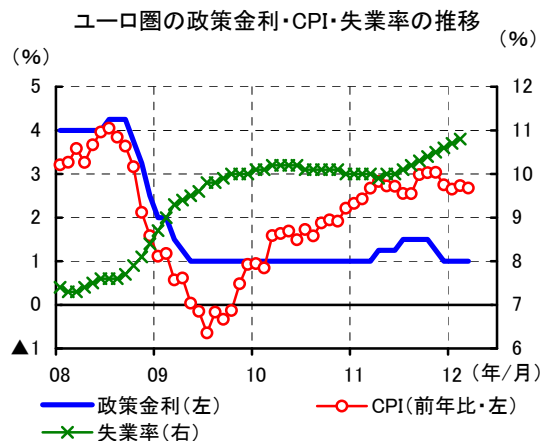
先行きを展望すると、ユーロ圏景気の下振れリスクや債務危機の再燃リスクがある一方、ドイツのインフレリスクへの警戒もあり、ECBは金融政策の現状維持を続ける見通し。

ちなみに、政策金利の先行きに対する市場の見方を示すOIS曲線は、前回3月のECB理事会後と比べて、足許の水準訂正が生じただけで、市場の金利観に大きな変化はみられず。

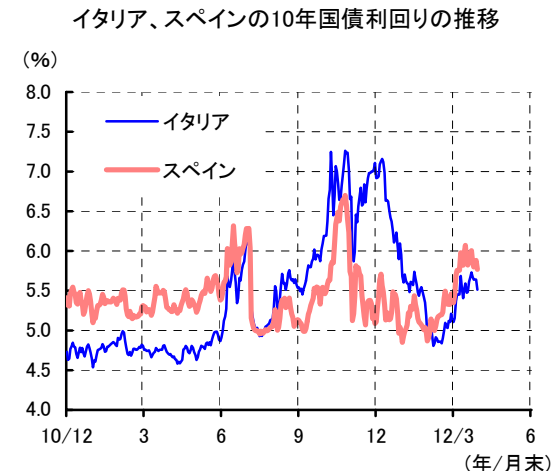
<ユーロ圏の金利動向>

4月の独2年債利回りは、債務問題に対する懸念が再燃するなか、逃避資金が流入し、下旬にユーロ導入後の最低水準まで低下。

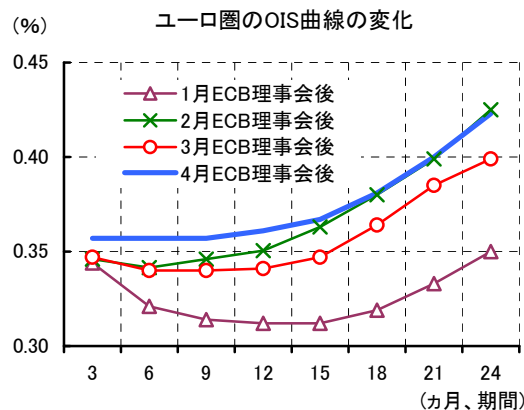
先行きの独2年債利回りは、ECBによる低金利政策の長期化が見込まれるほか、債務問題への懸念を背景とした周辺国からの逃避資金流入もあり、低水準での推移が続く見通し。



(資料)Eurostat、欧州委員会、ECB
(注)CPIは、Harmonised Index of Consumer Prices。



(資料)Bloomberg L.P.



(資料)Bloomberg L.P.をもとに日本総研作成
(注)OISとは、政策金利と一定期間の固定金利を交換する金利スワップのこと。政策金利の先行きに対する市場の見方を反映する。



(資料)Bloomberg L.P.

日銀が追加金融緩和を決定。わが国金利は低水準での推移が長期化する見通

＜日銀の金融政策＞

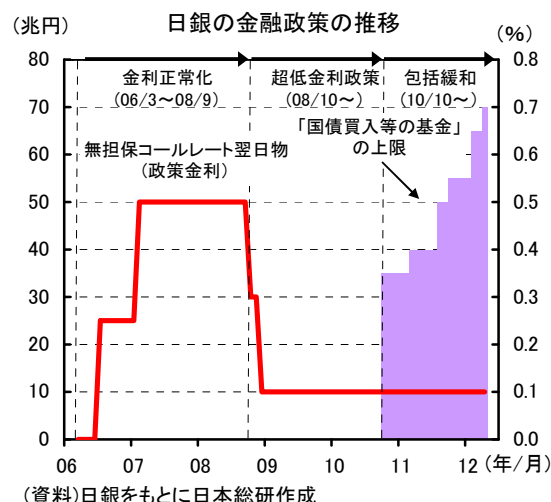
日銀は、4月27日の金融政策決定会合で、資産買入等の基金の上限を5兆円程度増額し、総額70兆円程度としたほか、買入対象国債の年限を2年から3年に延長すること等を決定。同日公表した「経済・物価情勢の展望（展望レポート）」では、消費者物価上昇率の見通しは13年度で前年度比+0.7%と、日銀が「中長期的な物価安定の目途」に掲げた1%に達していない状況。

白川総裁は、日銀が目指す消費者物価上昇率1%は「2014年度を含め、遠からず達する可能性が高い」と指摘しているものの、日銀は、少なくとも2014年まではデフレ脱却に向け積極的な金融緩和スタンスを継続する見通し。

＜日本の金利動向＞

4月のわが国2年債利回りは、日銀による追加金融緩和が実施されたものの、一段の金利低下が困難となるなか、底這い推移。

先行きのわが国2年債利回りは、日銀のデフレ脱却に向けた積極的な金融緩和姿勢や、企業の資金需要の低迷を背景とした市場の資金余剰感等から、金利上昇が抑制され、低水準での推移が長期化する見通し。なお、2年債利回りの一段の金利低下が困難になっているほか、今回買入対象に加えられた3年債利回りも、歴史的な低水準となっており、金利低下余地は乏しくなりつつある状況。



日銀の「資産買入等の基金」増額の内訳

(単位: 兆円程度)

	従来の規模	今回増額幅	増額後
総額	65	5	70
資産の買い入れ	30	10	40
長期国債	19	10	29
国庫短期証券	4.5	0	4.5
CP等	2.1	0	2.1
社債等	2.9	0	2.9
ETF	1.4	0.2	1.6
J-REIT	0.11	0.01	0.1
固定金利方式・共通担保資金供給オペ	35	▲5	30
期間3カ月	20	0	20
期間6カ月	15	▲5	10

(資料)日銀をもとに日本総研作成

2011～2013年度の政策委員の大勢見通し

(単位: 対前年度比、%)

	実質GDP	国内企業物価指数	消費者物価指数 (除く生鮮食品)
2011年度	▲0.2~▲0.2 <▲0.2>	+1.7	0.0
1月時点の見通し	▲0.4~▲0.3 <▲0.4>	+1.8~+1.9 <+1.8>	▲0.1~0.0 <▲0.1>
2012年度	+2.1~+2.4 <+2.0>	+0.4~+0.7 <+0.6>	+0.1~+0.4 <+0.3>
1月時点の見通し	+1.8~+2.1 <+2.0>	▲0.1~+0.2 <+0.1>	0.0~+0.2 <+0.1>
2013年度	+1.6~+1.8 <+1.7>	+0.7~+0.9 <+0.8>	0.5~+0.7 <+0.7>
1月時点の見通し	+1.4~+1.7 <+1.6>	+0.6~+1.0 <+0.8>	+0.4~+0.5 <+0.5>

(資料)日銀をもとに日本総研作成

(注) < >内は政策委員見通しの中央値。

わが国の年限別国債利回りの推移



(株)日本総合研究所 為替相場展望 2012年5月

金利差からみた為替相場

金利差からは、円安進行余地は限られる見込み。一方、日銀の緩和姿勢に対する市場の期待が後退すれば、円高に振れるリスク。

＜金利差からみたドル円相場＞

ドル円相場は、3月下旬以降、円安が一服したものの、依然、金利差に見合う水準よりも円安での推移が持続。

4月は米国での金利低下に伴い米日2年債利回り格差が縮小し、円高ドル安に作用。

先行き日米ともに超低金利政策の長期化を余儀なくされるなか、当面、米日金利差の大幅拡大は見込めず、金利差の観点からは、本格的な円安ドル高進行は期待薄。

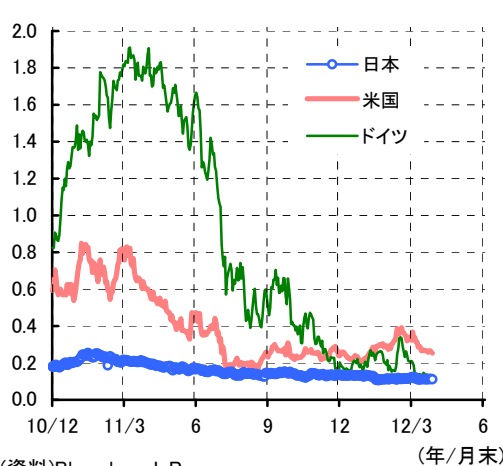
＜金利差からみたユーロ相場＞

4月は独米金利差、独日金利差ともに縮小し、対ドル、対円でユーロ安に作用。先行きユーロ圏でも低金利政策の長期化が見込まれるなか、独米金利差、独日金利差ともに、当面大幅拡大は見込めず、対ドル、対円で本格的なユーロ上昇は期待薄。

＜日銀の金融緩和の為替相場への影響＞

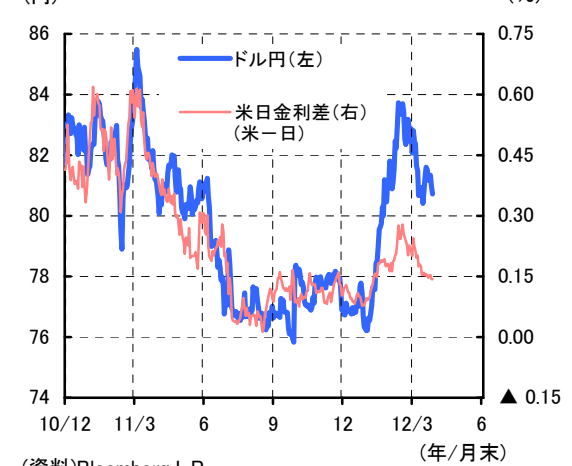
なお、為替相場への影響が大きいわが国2年債利回りの一段の低下が困難となるなか、日銀による追加金融緩和が実施されても、金利面からの円安誘導効果は限られる見込み。一方、これまで日銀の緩和姿勢に対する市場の期待がドル円、ユーロ円相場の金利差に見合う水準以上の円安を促してきた側面があるだけに、市場の期待が後退すれば、円高に振れるリスク。

(%) 日米独2年債利回りの推移



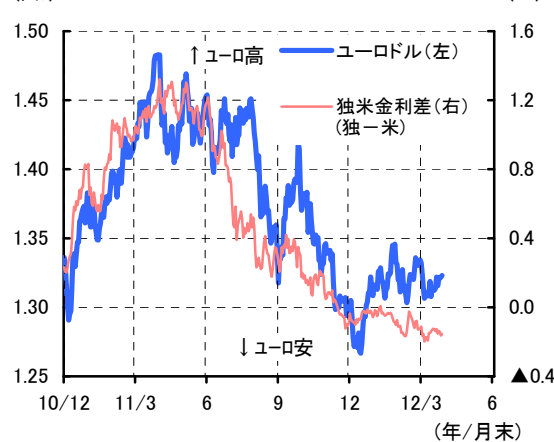
(資料)Bloomberg L.P.

(円) ドル円相場と米日2年債利回りの推移 (%)



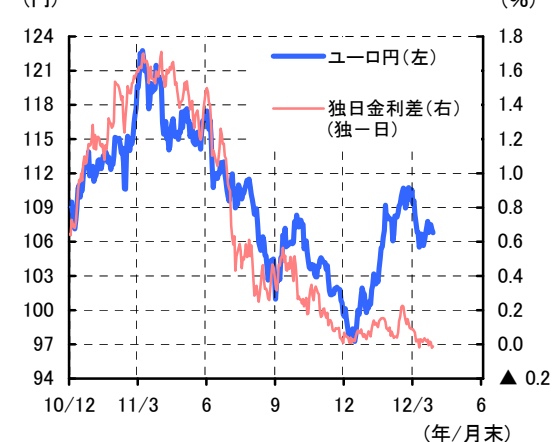
(資料)Bloomberg L.P.

(ドル) ユーロドル相場と独米2年債利回りの推移 (%)



(資料)Bloomberg L.P.

(円) ユーロ円相場と独日2年債利回りの推移 (%)



(資料)Bloomberg L.P.

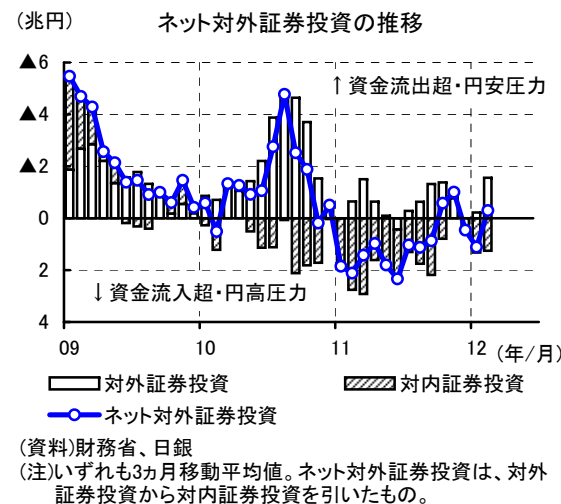
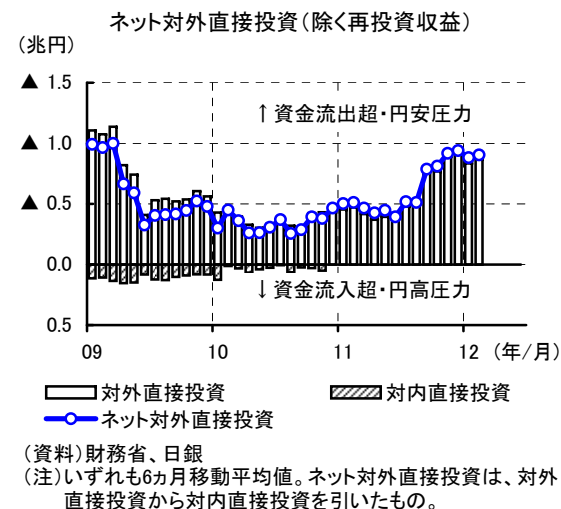
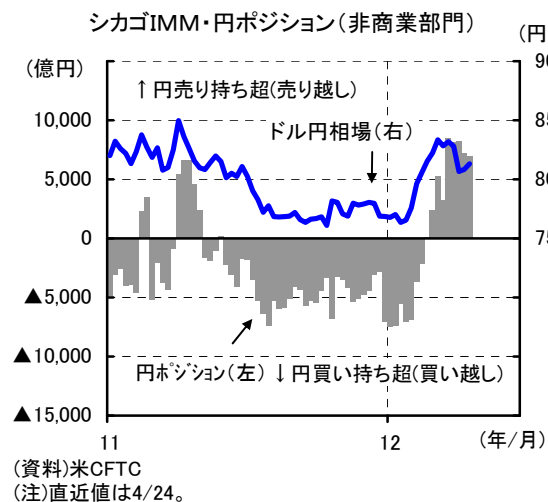
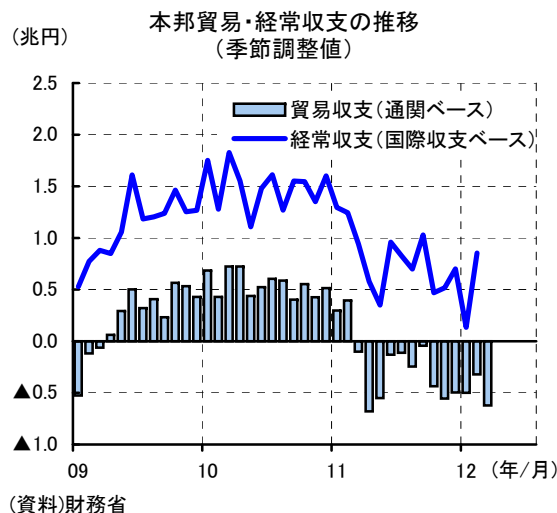
(株)日本総合研究所 為替相場展望 2012年5月

為替需給面からは円安地合いが続くも、持続的かつ大幅な円安進行は期待薄。

昨年の東日本大震災以降、貿易収支の悪化や対外直接投資の増加等により、為替需給面での円高圧力が減衰。そうしたなか、これまで円高をもたらしてきた投機筋の円買いポジションが円売りに転換し、2月中旬以降の円急反落を演出。

3月下旬以降、円安は一服しつつあるものの、当面、為替需給面からは円安地合いが続く見通し。第1に、わが国貿易収支は、新興国景気の回復の遅れや既往円高等により輸出の低迷が長引く一方、全国的な原発停止に伴う火力発電用燃料需要の増加等が輸入を押し上げており、黒字基調回復にはなお時間がかかる見込み。所得収支黒字に支えられ、経常黒字は維持されるとみられるものの、経常黒字幅が大幅に縮小するなか、円高圧力は限定的。第2に、対外直接投資も、海外市場の成長期待等から、急減する公算は小。

もっとも、持続的かつ大幅な円安進行は期待薄。第1に、対外証券投資の本格化にはなお時間がかかる公算。米国景気の回復期待の高まりや世界的な株価上昇が、今後、対外証券投資の増加を促す可能性はあるものの、欧州債務危機再燃懸念の残存や低水準の内外金利差が投資意欲を抑制。第2に、2月以降の円安を牽引した投機筋の円売り余力は乏しくなりつつある状況。IMM通貨先物取引（非商業部門）における円ポジションは、4月24日時点で円売りポジションが高水準。むしろ、仮に円売りポジションの巻き戻しが起これば、円高圧力となる可能性も。

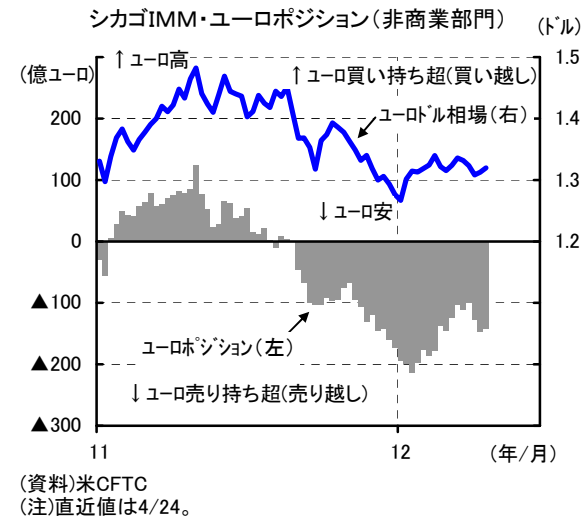
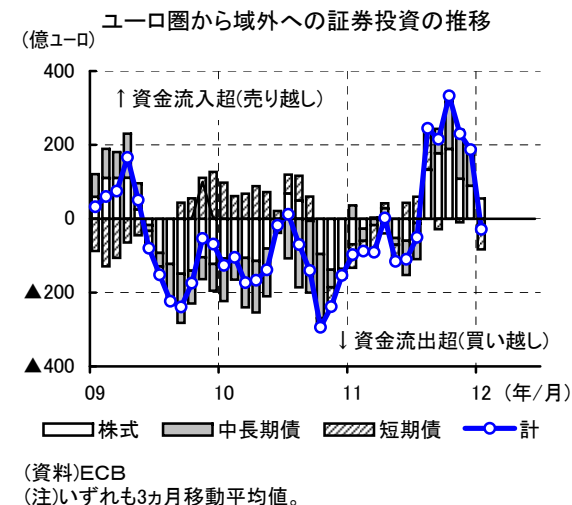
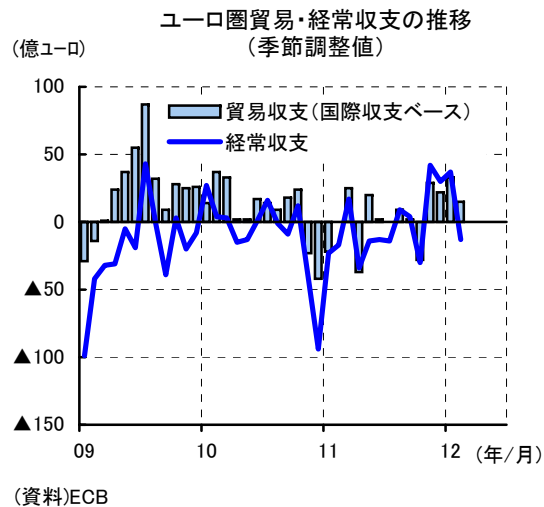
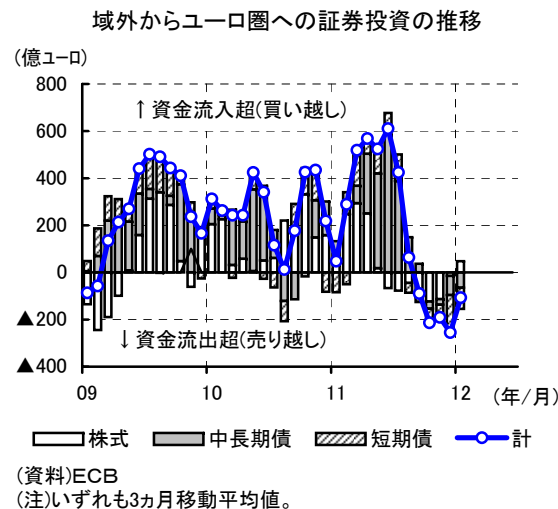


為替需給面からは、当面、債務危機等の状況に振られやすい地合いながら、一方的なユーロ安進行の公算は小。

1月までの域外からユーロ圏への証券投資は売り越し（資金流出）基調で推移し、ユーロ安圧力として作用。債務問題が収束の兆しをみせないなか、当面、域外からユーロ圏への証券投資は売り越し（資金流出）基調、ないしは低調推移が続く公算が大。

もっとも、一方的なユーロ安が進む公算は小。第1に、ユーロ圏からの域外への証券投資は、足許、買い越し（資金流入）に転換しているものの、債務問題が長期化するなか、今後もユーロ圏投資家による資金の本国回帰の動きから、断続的に買い越し（資金流入）が続く公算が大。第2に、ユーロ圏の貿易収支は、海外経済の持ち直しを背景に輸出が増加し、2月まで4ヵ月連続の黒字となり、実需面からはユーロ下支えに作用。2月の経常収支は小幅赤字に転換したものの、当面は輸出の増加に支えられ、貿易収支、経常収支の黒字基調が続く公算。第3に、ヘッジファンドなど投機筋の動向を示すIMM通貨先物取引（非商業部門）におけるユーロポジションは、ユーロ売りポジションが4月24日時点で依然高水準。仮にユーロ売りポジションがこれから積み上がったとしても、ユーロ安進行余地は限られる公算。

以上をまとめると、当面、証券投資を中心に債務危機の状況に振られやすい地合いながら、一方的なユーロ安進行の公算は小。



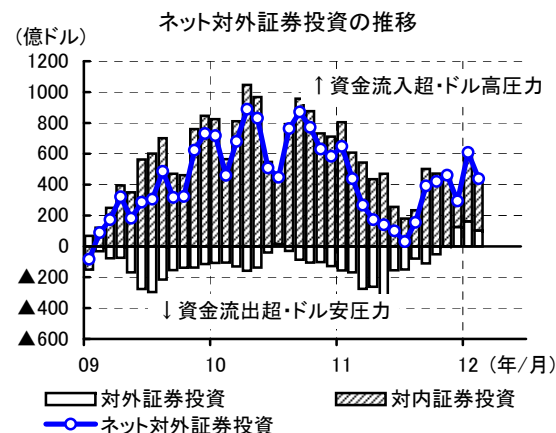
中国が米国債を売り越し基調。今後も米国債投資の減少が続けば、中長期でみたドル安圧力となる恐れ。

2月までの米国の証券投資動向を国際資本統計でみると、海外からの対米証券投資が買い越し（資金流入）基調となる一方、米国からの対外証券投資は昨年秋以降、売り越し（資金流出）基調に転換。ネットでは、米国への資金流入超が持続。

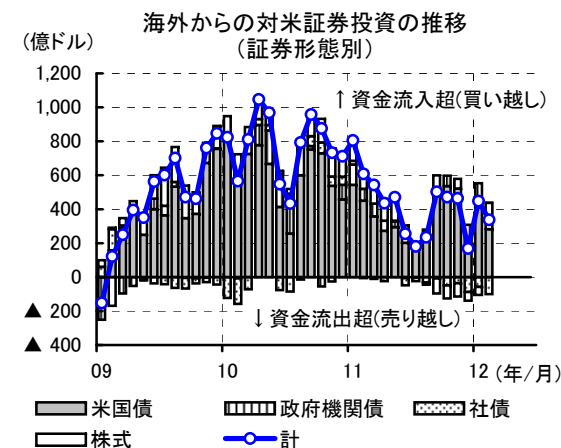
海外からの対米証券投資動向を証券形態別にみると、米国債への投資が大半。2008年の金融危機以降、米国債には逃避資金が流入してきたものの、足許にかけての米国債投資は、2010年と比べると低調。海外からの米国債投資を国別にみると、昨年夏以降、日本の米国債投資が円売り介入の影響もあり、高水準で推移する一方、中国の米国債投資の売り越し（資金流出）が散見。

もっとも、国際資本統計は、取引主体の居住地ではなく、取引が行われた場所で証券の売買を把握するため、中国は英国経由で米国債を購入している可能性が以前から指摘。そこで、中国と英国の米国債保有残高をみると、中国の保有残高は昨年7月をピークに減少傾向となる一方、英国の保有残高にも顕著な増加はみられておらず、中国は本国経由で米国債の売却を行う一方、英国経由でも米国債購入を行っていない可能性。中国はドルに偏重した外貨準備の構成のリバランスを行っているとの見方も可能。

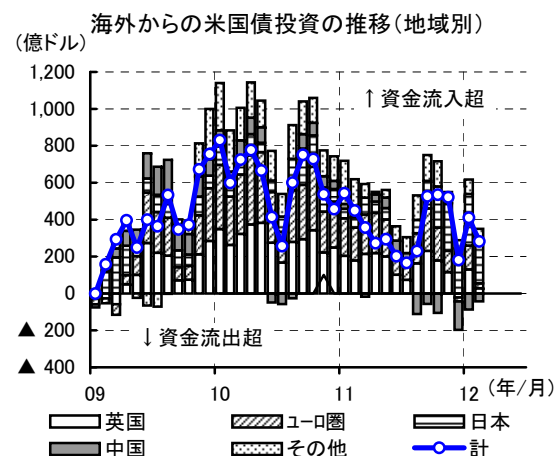
さらに、中国は4月16日から人民元の対ドル相場の変動幅を拡大。変動幅拡大の結果、人民元相場を市場の需給に委ねる度合いが高まれば、元高圧力が強まっても、元売りドル買い介入の規模は小さくなる公算が大。この結果、ドル買い需要（米国債需要）が減少すれば、中長期でみたドル安圧力となる恐れ。



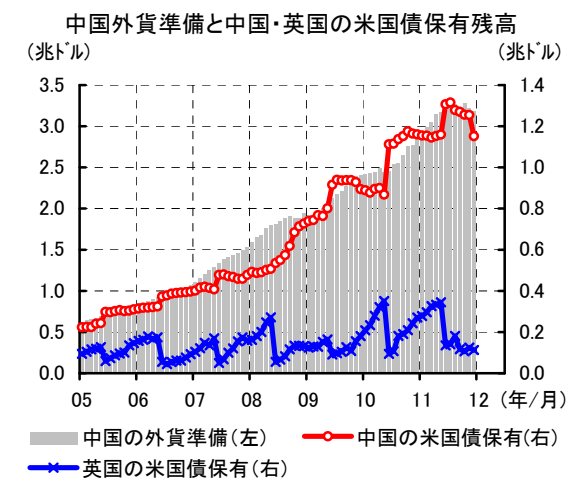
(資料)米財務省
(注)いずれも3ヵ月移動平均値。ネット対外証券投資は、対外証券投資から対内証券投資を引いたもの。



(資料)米財務省
(注)いずれも3ヵ月移動平均値。



(資料)米財務省
(注)いずれも3ヵ月移動平均値。



(資料)IMF、米財務省

(株)日本総合研究所 為替相場展望 2012年5月

ドル円、ユーロ相場の見通し

【ドル円】 80円台前半を中心とした円高値圏での推移が長期化する見通し。

【ユーロ】 債務問題、景気悪化等を背景に、ユーロが軟調な展開が続く見通し。

＜ドル円相場の見通し＞

急速な円高修正の動きは一服したものの、①米国経済の緩やかな回復基調が明確化するなか、米F R Bによる追加の金融緩和余地が限られていること、②日銀がデフレ脱却に向け積極的に金融緩和を行う意向を示していること、③当面わが国貿易収支の赤字基調が続くとみられること、等から、一方的に円高ドル安が進行するリスクは大きく後退。

もっとも、米国では、家計のバランスシート調整や、2013年以降の財政赤字削減等を背景に、米国経済の回復ペースは緩やかにとどまるとみられ、F R Bによる利上げは当面展望できない状況。

この結果、ドル円相場は、徐々に上値を目指しつつも、80～85円を中心とした円高値圏での推移が長期化する見通し。

＜ユーロ相場の見通し＞

ギリシャの債務不履行リスクが後退した2月以降、一方的なユーロ安には歯止め。もっとも、①債務危機の根本原因である重債務国の財政再建問題は解決しておらず、E C Bによる長期流動性資金供給の効果が一巡するなか、欧州債務問題への警戒感が再燃していること、②緊縮財政等を背景にユーロ圏景気の悪化が予想されること、等から、当面ユーロが軟調な展開が続く見通し。

なお、ギリシャやフランス等で財政緊縮に対する不満が高まるなか、これまでのユーロ支援体制に綻びが生じれば、ユーロが大きく下振れするリスクも。

ドル円相場見通し

	2012年				2013年
	1～3	4～6	7～9	10～12	1～3
期中平均	79.3	81.5	82.0	82.5	82.5
(高値)	84.2	85	85	86	86
レンジ	5	5	5	5	5
(安値)	76.0	78	78	79	79

予測

ユーロ円相場見通し

	2012年				2013年
	1～3	4～6	7～9	10～12	1～3
期中平均	104.0	106	106	105	105
(高値)	111.4	112	112	111	111
レンジ	5	5	5	5	5
(安値)	97.0	100	100	99	99

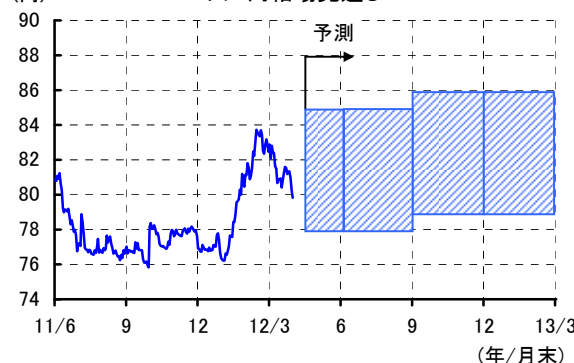
予測

ユーロドル相場見通し

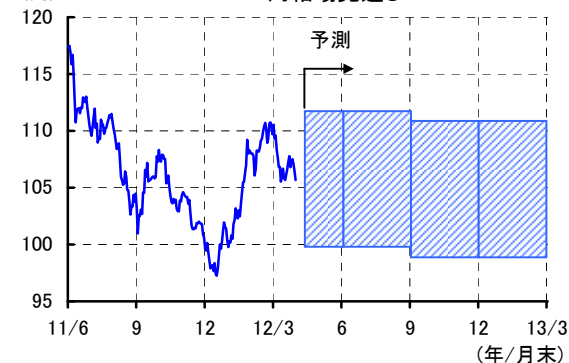
	2012年				2013年
	1～3	4～6	7～9	10～12	1～3
期中平均	1.31	1.31	1.29	1.28	1.28
(高値)	1.35	1.38	1.36	1.35	1.34
レンジ	5	5	5	5	5
(安値)	1.26	1.24	1.22	1.21	1.21

予測

ドル円相場見通し



ユーロ円相場見通し



(株)日本総合研究所 為替相場展望 2012年5月

内外市場データ（月中平均）

	短期金利		ユーロ円(TIBOR)		円・円スワップ			国債 10年物 (%)	プライムレート		為替相場		日経平均 株価 (円)	米国市場				欧州市場	
	公定歩合 (%)	無担0/N (%)	3ヵ月 (%)	6ヵ月 (%)	2年 (%)	5年 (%)	10年 (%)		短期 (%)	長期 (%)	¥/\$	¥/Eur		F F 0/N	ユー3ヵ月	10年国債	N Y ダウ 工業株	ユー3ヵ月	10年国債
09/1	0.30	0.120	0.73	0.78	0.75	0.94	1.26	1.25	1.475	2.25	90.41	119.68	8331.49	0.15	1.73	2.47	8396.20	2.45	3.09
09/2	0.30	0.111	0.71	0.77	0.72	0.89	1.19	1.29	1.475	2.25	92.50	118.33	7694.78	0.22	1.65	2.85	7749.01	1.96	3.17
09/3	0.30	0.100	0.68	0.75	0.74	0.91	1.25	1.30	1.475	2.25	97.87	127.44	7764.58	0.18	1.62	2.80	7235.47	1.63	3.06
09/4	0.30	0.104	0.62	0.72	0.75	0.99	1.39	1.44	1.475	2.30	99.00	130.50	8767.96	0.15	1.49	2.90	7992.12	1.42	3.19
09/5	0.30	0.102	0.58	0.70	0.69	0.94	1.36	1.44	1.475	2.10	96.30	131.92	9304.43	0.17	1.23	3.30	8398.37	1.28	3.42
09/6	0.30	0.104	0.56	0.68	0.68	0.92	1.41	1.47	1.475	2.10	96.52	135.46	9810.31	0.21	1.07	3.70	8593.00	1.23	3.55
09/7	0.30	0.102	0.56	0.67	0.62	0.86	1.37	1.34	1.475	1.90	94.50	133.00	9691.12	0.16	0.91	3.53	8679.75	0.95	3.36
09/8	0.30	0.106	0.55	0.66	0.60	0.88	1.46	1.37	1.475	1.95	94.84	135.40	10430.35	0.16	0.69	3.57	9375.06	0.83	3.33
09/9	0.30	0.102	0.53	0.65	0.56	0.83	1.41	1.31	1.475	1.80	91.49	132.80	10302.87	0.15	0.53	3.39	9634.97	0.73	3.29
09/10	0.30	0.106	0.53	0.64	0.58	0.86	1.47	1.33	1.475	1.70	90.29	133.87	10066.24	0.12	0.49	3.36	9857.34	0.69	3.23
09/11	0.30	0.105	0.52	0.63	0.56	0.83	1.48	1.35	1.475	1.85	89.19	132.98	9640.99	0.12	0.25	3.38	10227.55	0.67	3.28
09/12	0.30	0.101	0.47	0.59	0.48	0.71	1.39	1.26	1.475	1.65	89.55	130.95	10169.01	0.12	0.25	3.59	10433.44	0.67	3.23
10/1	0.30	0.096	0.45	0.57	0.48	0.72	1.42	1.33	1.475	1.65	91.16	130.30	10661.62	0.12	0.24	3.71	10471.24	0.63	3.29
10/2	0.30	0.101	0.44	0.56	0.47	0.72	1.41	1.33	1.475	1.65	90.28	123.58	10175.13	0.13	0.23	3.68	10214.51	0.60	3.19
10/3	0.30	0.097	0.44	0.55	0.46	0.71	1.40	1.34	1.475	1.60	90.52	122.96	10671.49	0.16	0.23	3.71	10677.52	0.59	3.13
10/4	0.30	0.093	0.41	0.52	0.47	0.72	1.40	1.35	1.475	1.65	93.38	125.57	11139.77	0.20	0.25	3.82	11052.15	0.59	3.09
10/5	0.30	0.091	0.39	0.50	0.48	0.69	1.34	1.27	1.475	1.60	91.74	114.68	10103.98	0.20	0.36	3.40	10500.19	0.63	2.80
10/6	0.30	0.095	0.39	0.50	0.47	0.65	1.27	1.20	1.475	1.45	90.92	110.99	9786.05	0.18	0.45	3.19	10159.25	0.66	2.63
10/7	0.30	0.094	0.37	0.49	0.45	0.59	1.16	1.09	1.475	1.45	87.72	111.81	9456.84	0.18	0.43	2.98	10222.24	0.79	2.65
10/8	0.30	0.095	0.37	0.49	0.43	0.54	1.04	0.98	1.475	1.45	85.47	110.36	9268.24	0.19	0.35	2.68	10350.40	0.83	2.37
10/9	0.30	0.090	0.36	0.47	0.41	0.55	1.13	1.06	1.475	1.45	84.38	109.94	9346.72	0.20	0.31	2.64	10598.07	0.83	2.34
10/10	0.30	0.091	0.34	0.45	0.38	0.47	0.97	0.89	1.475	1.30	81.87	113.65	9455.09	0.19	0.29	2.51	11044.49	0.94	2.37
10/11	0.30	0.091	0.34	0.45	0.40	0.55	1.12	1.05	1.475	1.40	82.48	112.64	9797.18	0.20	0.29	2.75	11198.31	0.98	2.56
10/12	0.30	0.087	0.34	0.45	0.41	0.64	1.27	1.19	1.475	1.60	83.41	110.28	10254.46	0.18	0.29	3.28	11465.26	0.95	2.96
11/1	0.30	0.085	0.34	0.45	0.41	0.64	1.27	1.21	1.475	1.50	82.63	110.53	10449.53	0.17	0.29	3.36	11802.37	0.95	3.05
11/2	0.30	0.093	0.34	0.45	0.43	0.71	1.34	1.28	1.475	1.65	82.53	112.70	10622.27	0.16	0.31	3.56	12190.00	1.04	3.23
11/3	0.30	0.085	0.34	0.45	0.40	0.64	1.29	1.25	1.475	1.60	81.79	114.48	9852.45	0.14	0.31	3.40	12081.48	1.13	3.25
11/4	0.30	0.062	0.33	0.44	0.39	0.65	1.32	1.27	1.475	1.70	83.35	120.34	9644.63	0.10	0.27	3.43	12434.88	1.27	3.35
11/5	0.30	0.069	0.33	0.44	0.37	0.56	1.19	1.14	1.475	1.55	81.23	116.03	9650.78	0.09	0.26	3.15	12579.99	1.38	3.11
11/6	0.30	0.069	0.33	0.44	0.37	0.54	1.15	1.13	1.475	1.50	80.51	115.82	9541.53	0.09	0.24	2.99	12097.31	1.43	2.97
11/7	0.30	0.073	0.33	0.44	0.37	0.53	1.13	1.11	1.475	1.50	79.47	113.52	9996.68	0.07	0.22	2.98	12515.68	1.54	2.78
11/8	0.30	0.081	0.33	0.44	0.33	0.46	1.03	1.02	1.475	1.35	77.22	110.62	9072.94	0.10	0.26	2.29	11326.62	1.50	2.25
11/9	0.30	0.080	0.33	0.43	0.34	0.46	1.00	1.00	1.475	1.40	76.84	105.89	8695.42	0.08	0.31	1.96	11175.45	1.48	1.87
11/10	0.30	0.081	0.33	0.43	0.35	0.47	1.01	1.01	1.475	1.40	76.77	105.24	8733.56	0.07	0.36	2.13	11515.93	1.51	2.04
11/11	0.30	0.073	0.31	0.41	0.35	0.45	0.95	0.94	1.475	1.40	77.54	105.05	8506.11	0.08	0.36	2.00	11804.33	1.43	1.95
11/12	0.30	0.078	0.33	0.43	0.38	0.49	1.00	1.00	1.475	1.40	77.85	102.54	8505.99	0.07	0.37	1.97	12075.68	1.36	1.99
12/1	0.30	0.081	0.33	0.43	0.37	0.47	0.98	0.97	1.475	1.40	76.97	99.35	8616.71	0.09	0.35	1.94	12550.89	1.16	1.86
12/2	0.30	0.085	0.33	0.44	0.35	0.46	0.98	0.96	1.475	1.40	78.45	103.85	9242.33	0.12	0.32	1.96	12889.05	0.98	1.90
12/3	0.30	0.084	0.33	0.44	0.35	0.48	1.04	1.00	1.475	1.35	82.43	108.83	9962.35	0.14	0.30	2.16	13079.47	0.76	1.88
12/4	0.30	0.084	0.33	0.44	0.35	0.48	1.04	1.00	1.475	1.35	81.49	107.14	9627.42	0.16	0.31	2.03	13030.75	0.66	1.73

(注) 公定歩合とプライムレートは月末値。